

## 『異常値の出るメカニズム(第7版)』 正誤表

このたびは『異常値の出るメカニズム(第7版)』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。第1刷(2018年3月31日発行)～第5刷(2022年3月1日発行)におきまして以下の誤りがございましたので、ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2018年6月18日作成 2023年1月27日更新

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1	14頁・左段 最終行	…鉄欠乏状態で <b>高</b> 値, 鉄過剰状態で <b>低</b> 値になる	…鉄欠乏状態で <b>低</b> 値, 鉄過剰状態で <b>高</b> 値になる	2018/12/17
1～5	39頁・左段 3～4行目	<b>外因系凝固因子の X, VII, V, プロトロンビン(II), およびフィブリノゲン(I)因子</b> が関与し	外因系凝固因子の VII, 共通系の X, V, プロトロンビン(II), フィブリノゲン(I)因子が関与し	2022/10/26
1	69頁・表4-1 主な血漿蛋白とその特徴「アルブミン(Alb)」行「基準範囲(mg/dL)」列	<b>2,500～4,000</b>	<b>3,500～5,000</b>	2018/12/17
1, 2	79頁・図4-13 図説10～11行目	抗 $\gamma$ , $\kappa$ に対してもM-bowを形成しているが, <b>抗 <math>\lambda</math></b> には反応していない.	抗 $\gamma$ , $\lambda$ に対してもM-bowを形成しているが, <b>抗 <math>\kappa</math></b> には反応していない.	2021/02/24
1	82頁・右段 下から11～10行目	…低分子のため <b>腎糸球体から</b> 容易に腎糸球体を通過し, …	…低分子のため <b>血漿 <math>\beta_2</math>ml</b> は容易に腎糸球体を通過し, …	2018/12/17
1～5	90頁・図5-3 ASTとALTの各病態の変動	肝硬変, 肝癌: <b>AST・ALT両方の増加</b> アルコール性肝障害: <b>ALT 主として増加(AST&lt;ALT)</b>	肝硬変, 肝癌, アルコール性肝障害: <b>AST 主として増加(AST&gt;ALT)</b> 数値にも変更あり(p.2の修正した図をご覧ください)	2023/01/27
1	98頁・図5-12 血清AMYの各種疾患時の上昇頻度(平均的傾向)	<b>腎不全, 腎移植のグラフを修正</b>	<b>修正した図をご覧ください(p.2)</b>	2019/01/14
1～5	110頁・左段 26～27行目	HOMA-IR =空腹時血糖値(mg/dL)×空腹時インスリン値( $\mu$ g/mL)/405	HOMA-IR =空腹時血糖値(mg/dL)×空腹時インスリン値( $\mu$ U/mL)/405	2022/11/07
1～5	110頁・右段 9～10行目	HOMA- $\beta$ =360×空腹時インスリン値( $\mu$ g/mL) / {空腹時血糖値(mg/dL)-63}	HOMA- $\beta$ =360×空腹時インスリン値( $\mu$ U/mL) / {空腹時血糖値(mg/dL)-63}	2022/11/07
1, 2	123頁・右段 7行目	下垂体 <b>前</b> 葉	下垂体 <b>後</b> 葉	2020/08/31
1	142頁・左段 14行目	アニオンギャップ=Na-( <b>K</b> +Cl)	アニオンギャップ=Na-( <b>HCO<sub>3</sub></b> +Cl)	2018/06/18
1～5	148頁・表10-1 同義語	<b>IV型</b> 抗体依存性細胞傷害(ADCC)型	<b>II型</b> 抗体依存性細胞傷害(ADCC)型	2022/05/23
1～5	160頁・図10-8	<b>髄液ミエリン</b> 塩基性蛋白	<b>主要</b> 塩基性蛋白	2022/03/15
1～5	160頁・図10-8	<b>一酸化窒素(NO)</b>	<b>活性酸素種(ROS)</b>	2022/03/24
1, 2	253頁・左段 上から12～13行目	<b>骨髄での好中球産生が, 感染巣での好中球消費を上回る場合には,</b>	<b>感染巣での好中球消費が, 骨髄での好中球産生を上回る場合には,</b>	2020/09/07
1	277頁・左段「[1]個人内での変動を評価することが基本」内 本文11～12行目	…同じ施設で診療している限り, <b>検査の再現性</b> はさほど気にしなくてすむ.	…同じ施設で診療している限り, <b>検査値の施設間差</b> はさほど気にしなくてすむ.	2018/12/17

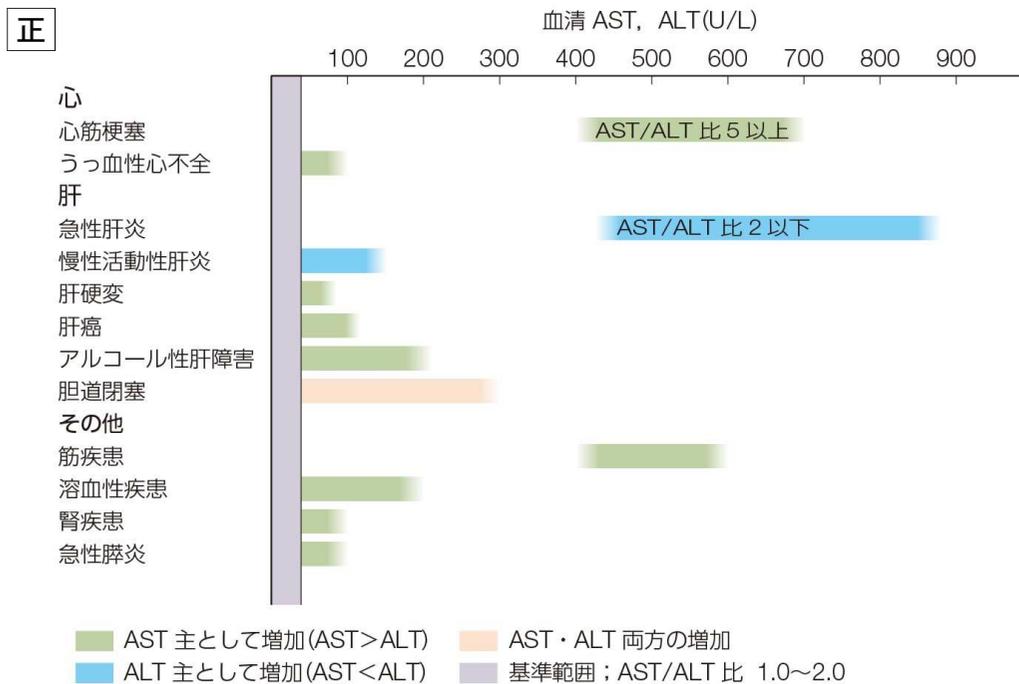


図 5-3 AST と ALT の各病態の変動

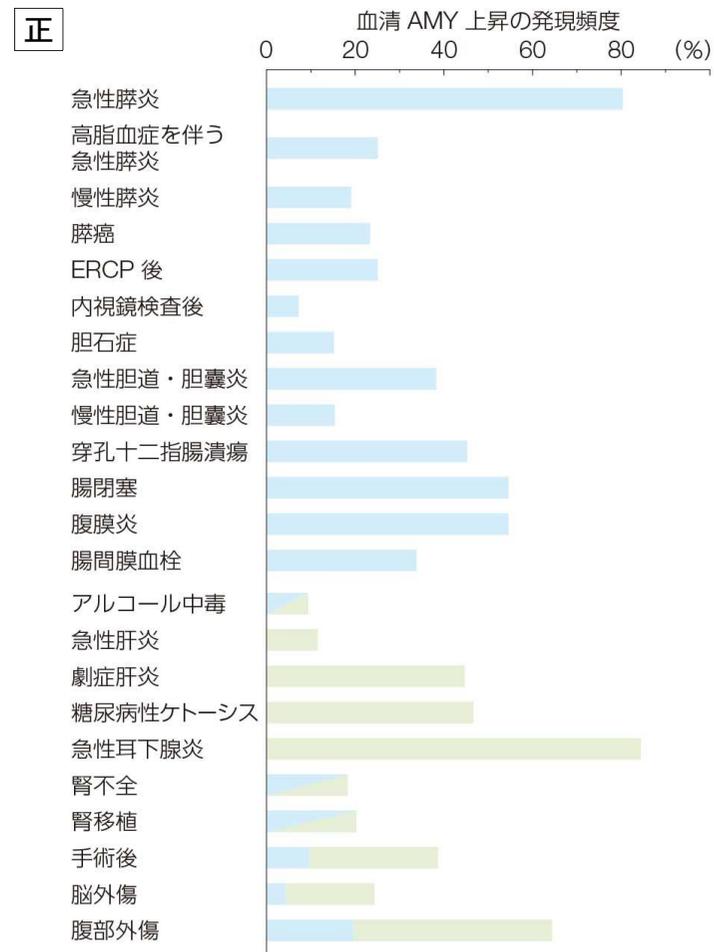


図 5-12 血清 AMY の各種疾患時の上昇頻度(平均的傾向) (玄番・原図を改変)

青色は P 型アミラーゼ, 緑色は S 型アミラーゼを示す。